文京ゆかりの文人たち

～明治の文豪・森鷗外と天才歌人・石川啄木～

多くの文人たちが暮らしたまち文京区には、旧居跡や作品の舞台などゆかりの地が数多く残されています。その中でも、平成24年に生誕150年を迎えた明治の文豪・森鷗外と、平成27年3月に歌碑及び顕彰室が設置される天才歌人・石川啄木について取り上げて紹介します。

森鷗外記念館ではさまざまなイベントやワークショップが開催されている。平成26年7月には紙芝居師スズキスズ氏による、紙芝居で出会う鷗外「山椒大夫」の実演が行われた

多くの文人たちが暮らしたまち

文京区には、森鷗外、夏目漱石、樋口一葉、石川啄木など、近代文学を発展させてきた多くの文人たちが暮らしていました。東京大学のある本郷を中心に学者や作家が集まり、優れた作品が生まれました。区内には、旧居跡、作品の舞台となった場所など文人たちゆかりの地が数多く残っています。

明治の文豪・森鷗外が半生を過ごした地

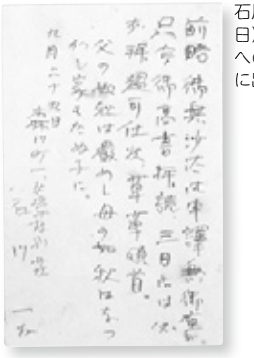
文京ゆかりの文人たちの中に、平成24年に生誕150年を迎えた明治の文豪・森鷗外がいます。小説家・劇曲家・評論家・翻訳家・陸軍軍医といくつもの顔を持つ鷗外は、人生の半分を区内で暮らし、学び、作品の舞台としました。今でも区内のあちこちに鷗外ゆかりの場所が残されています。

文京区千駄木にある「文京区立森鷗外記念館」が建つ場所には、鷗外が半生を過ごした旧居「観潮楼」がありました。観潮楼とは、団子坂上に位置し、2階から遠く東京湾が望めたことから鷗外により名付けられたものです。鷗外は30歳から60歳で亡くなる大正11年まで家族とともにこの場所で過ごしました。作品を生み出す場だけでなく交流拠点でもあった観潮楼には、歌会をはじめとする集まりや日々の訪問客として、石川啄木や斎藤茂吉、永井荷風など多くの文化人たちがいました。

森鷗外記念館蔵

森鷗外

本名は森林太郎。1862年（文久2年）1月19日、津和野藩の典医を務める森家の長男として生まれた。10歳のときに上京し、ドイツ語を学び、東京大学の予科に入学、大学では医学を学び、卒業後軍医となった。1884年（明治17年）から4年間ドイツに留学し、帰国後は軍医としての仕事の傍ら、小説「舞姫」「雁」「山椒大夫」「高瀬舟」などを執筆、また医学やヨーロッパ文学などの評論や翻訳なども行った。1907年（明治40年）には軍医総監・医務局長に就任、その後、帝室博物館（現東京国立博物館）総長兼図書頭の職につき、1922年（大正11年）7月9日、60歳で亡くなった。



石川啄木筆鷗外宛はがき（明治41年９月29日）（森鷗外記念館蔵）。観潮楼歌会開催通知への石川啄木からの返信。10月３日の歌会に出席することを伝え、歌を一首添えている

当時の観潮楼の門前（森鷗外記念館蔵）

その他にも区内には鷗外ゆかりの場所がたくさんあります。

上京して最初にドイツ語を学んだ本郷の進文学社、医学を修めた東京大学医学部、後に夏目漱石も居住した千駄木町（向丘）の家などです。

鷗外は陸軍への通勤に白山から電車を利用し、夕食後の散歩には白山から本郷三丁目まで歩き、根津を通って戻りました。また、休日には小石川植物園へ通っていたそうです。

鷗外の没後、観潮楼は戦災などによりほとんどが焼失しました。戦後、跡地は公園となり、昭和25年、都の旧跡として指定を受けました。昭和37年、鷗外生誕１００年の際に「鷗外記念室」を併設した「文京区立鷗外記念本郷図書館」として開館、そして平成18年、図書館の移転に伴い記念室は独立して「本郷図書館鷗外記念室」となりました。

その後平成24年11月、区は鷗外生誕１５０年を記念し、森鷗外記念館として新たに開館しました。

記念館は鷗外の作品だけでなく、鷗外と交流のあった作家や執筆当時の様子など、さまざまな展示・講演会・ワークショップ等で鷗外の魅力を伝えています。

平成27年1月には、鷗外の誕生日を記念して、帝室博物館総長時代の鷗外についての講演会「博物館長としての鷗外―晩年の業績―」が開催されました。鷗外は大正6年12月、帝室博物館総長兼図書頭に就任し、展示の改革や、奈良・正倉院の曝※涼に携わりました。

また、当時皇室の管轄下にあった上野公園について、今後どのような対応をすべきか「上野公園ノ法律上ノ性質」という論文にまとめました。この論文の自筆原稿が、平成24年に東京国立博物館で見つかっています。

また、記念館内のカフェで夜にお茶を飲みながら行う朗読会や、街頭紙芝居「山椒大夫」の実演、現役俳優を講師に小説の一部を親子で演じる演劇ワークショップなど、鷗外の作品世界に楽しみながら触れることのできる工夫をこらしたイベントが開催されています。

平成26年12月には、鷗外の三男・森類の関係資料約６４００件が新たに遺族から区に寄贈されました。資料の中には、鷗外の家族をテーマとした著作「森家の兄弟」などの自筆原稿や鷗外の写真なども含まれており、これらの一部は平成27年3月11日から開催する新収蔵品展で公開します。

石川啄木の歌碑・顕彰室の設置

岩手県盛岡市から上京し、区内各地に暮らし作品を生み出した歌人・石川啄木も区ゆかりの文人のひとりです。

区では平成19年度より啄木の出身地である盛岡市と、それぞれにゆかりの深い啄木を改めて顕彰し、同時に両市区の文化交流を活性化していくために、毎年「啄木学級―文の京講座―」の共催等を実施してきました。

啄木の没後１００年を迎えた平成24年7月には、盛岡市と『「石川啄木ゆかりの地」地域文化交流に関する協定』を締結し、相互の協力関係を強化してきました。

鷗外作品の教科書掲載ランキング

学校教科書に掲載されることの多い鷗外の作品。掲載された作品は30作以上、なんと掲載回数150回を超える作品もある。これまで教科書に掲載された作品を、掲載数の多い順にランキング。

高校

1位 舞姫 169回　高校の教科書に登場する鷗外作品のほぼ50％を占める。

2位 高瀬舟 42回　「舞姫」に次いで継続的に掲載されている。

3位 寒山拾得 33回　昭和25年が掲載のピークだった。

中学

1位 山椒大夫 64回　「安寿と厨子王」というタイトルでの掲載も多い。

2位 最後の一句 16回　25年ぶりに平成24年に掲載された。

3位 高瀬舟 5回　主に平成以降に掲載されている。

※昭和24年～平成26年発行の教科書を対象

平成26年６月27日～９月７日　森鷗外記念館コレクション展「教室で出会う鷗外～鷗外と仲良くする方法」より

平成26年12月22日、鷗外の三男・森類の長男・哲太郎氏から父親の関係資料が寄贈された。哲太郎氏から成澤廣修区長へ寄贈資料の目録が渡された

※曝涼（ばくりょう）…図書などを日にさらし風を通し、カビや虫がわくのを防ぐこと。

文人の顕彰事業を支えていくため寄附を募集

区では、文京ゆかりの文人の顕彰事業を今後も支えていくため、基金を設置するなど、広く寄附を募っています。

森鷗外基金

平成24年11月１日に開館した「森鷗外記念館」のさらなる資料の充実・保存を図るために設けられた基金です。

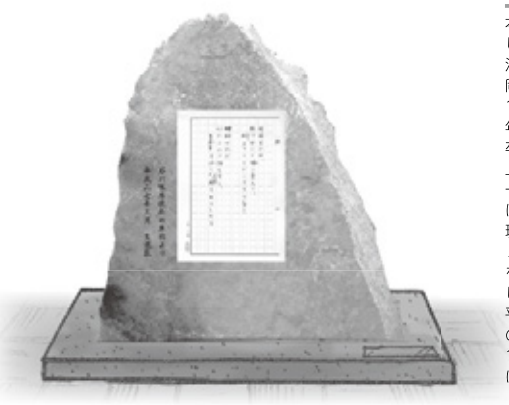
石川啄木基金

平成27年３月22日にオープンする「石川啄木終焉の地歌碑」「石川啄木顕彰室」の設置及び運営のために設けられた基金です。

一葉募金

24年の短い生涯のうち、10年余を文京区域に暮らした樋口一葉。その一葉が生活苦のなかで通ったのが本郷の伊勢屋質店でした。この建物、国登録有形文化財「旧伊勢屋質店」の保全・活用や、樋口一葉の顕彰に資するための募金です。

石川啄木終焉の地歌碑のイメージ



石川啄木記念館提供

石川啄木

本名は石川一（はじめ）。1886年（明治19年）岩手県盛岡に生まれる。1902年（明治35年）盛岡中学校を卒業直前に退学し上京、現在の音羽一丁目に下宿する。ほどなく帰郷し、その後２度目の上京では現在の弥生二丁目に、1908年（明治41年）、３度目の上京では同郷の先輩・金田一京助を頼り、現在の本郷五丁目の赤心館に下宿した。家賃の滞納で現在の本郷六丁目の蓋平館別荘に移り、翌年、家族を迎えて現在の本郷二丁目の喜之床に移った。その後、1911年（明治44年）現在の小石川五丁目に移り、翌年26年の短い生涯を閉じた。

区では、区内で多くの作品を残した啄木を区ゆかりの文人として顕彰することを目的に、平成27年３月22日、啄木終焉の地である小石川に歌碑及び顕彰室を開設します。

歌碑に刻む歌は、啄木がこの地で最後に創作したとされる二首で、当時の直筆原稿を陶板で再現します。碑材にはふるさと盛岡の山「姫神山」の石を使用し、啄木の生涯に思いを馳せることができます。同時に隣接した高齢者施設内の一角に開設する顕彰室では、啄木直筆原稿及び書簡（レプリカ）などを展示していきます。

また、歌碑建立記念事業として、２月には企画展「啄木とぶんきょう―たかく飛んだ！26年―」の開催、文の京お散歩ブック「石川啄木～愛に支えられた生涯～」の発行、４月には区立小石川図書館で歌人の佐佐木幸綱氏による啄木忌講演会を開催します。ほかにも文京さくらまつり（３月21日～４月５日）でのＰＲ展示、区内の啄木ゆかりの地のまちあるきガイドツアーなど、歌碑の建立を機にさまざまな形で啄木の顕彰を進めていきます。

文の京（ふみのみやこ）ゆかりの文化人顕彰事業

多くの学者や作家、芸術家が暮らした区内には、こうした人々の足跡が数多く残っています。区ではこれを文化遺産として顕彰し、後世に伝えていくためにさまざまな事業を展開しています。

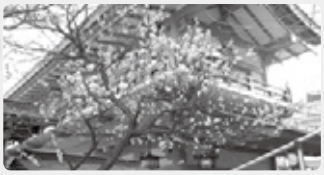
平成26年度には、文京区歌の作詞者としても知られる、没後50年を迎えた作家・佐藤春夫を顕彰する事業が、文京ふるさと歴史館や森鷗外記念館等で開催されました。

平成27年も、生誕や没後の記念の年を迎える文化人を中心に、イベントなどを開催する予定です。区では今後も、文京ゆかりの文化人たちを顕彰し、区の魅力としてＰＲしていきます。

散策におすすめ

文京花の五大まつり

2月
文京梅まつり
湯島天満宮（湯島３-30-１）



3月下旬～4月上旬
文京さくらまつり
播磨坂さくら並木
（小石川４丁目、５丁目境）

4月～5月上旬
文京つつじまつり
根津神社（根津１-28-９）

6月
文京あじさいまつり
白山神社（白山５-31-26）、
白山公園（白山５-31）

11月
文京菊まつり
湯島天満宮（湯島３-30-１）